

台風被害の 分析による対策は



町長 石内 國雄

台風期までに計画等を完了



町長 小川 一幸

質問 昨年の台風19号で災害対策に必要な貴重な教訓・データを得たと考えるが、被害の分析による対策はできているか。

答弁 町長 発信力の強化や情報取得するための人員配置や自主防災組織との連携強化を図るとともに、防災教育やタイムラインの普及、自主防災組織の組織力強化や防災士の組織化も図っていききたい。

また、台風19号に匹敵する台風の襲来は、毎年起こることを想定し、台風期までにハード的な対策と計画等の策定を完了したいと考えている。

質問 内水氾濫する場所は事前に想定されており、具体的対策を考えておく必要がある。危険箇所におけるその原因と、具体的対策はどうなっているか。

答弁 町長 台風19号の降雨による利根川、烏川の水位



板井の内水被害

の上昇と、時間20ミリの強い雨が5時間にわたり降り続いたことが原因と考える。対策としては、町が五料・上福島の危険箇所、伊勢崎土木事務所が板井銀輪橋付近に、それぞれ水位の監視カメラを設置する予定である。

質問 用排水路等を整備することで、内水氾濫が防げる場所もあると思うが、早期に対処する考えはあるか。

答弁 町長 用排水路の整備については、部分的な改修工事で効果が上がる場合もあれば、あふれる場所が変わるだけの場所もあるので、内水氾濫箇所を調査し、検討していきたい。

質問 内水氾濫のハザードマップの作成計画の状況は。

答弁 町長 出水期前には完成させ、住民周知を図りたい。

玉村町の立地条件を生かせ

質問 施政方針における玉村町の恵まれた立地条件などの魅力を最大限生かした地方創生を推進する新たな事業創出とは何か。

答弁 町長 玉村町は全国からの利便性を生かし、新たな企業を誘致し雇用の機会の創出を考えている。

商品券が使用可能な 店舗が少ない



町長 小川 一幸

踏み込んだ開拓も必要だった

質問 プレミアム付商品券事業が実施されたが、申請者や利用者が少ないように感じる。商品券を購入した方が利用しやすいよう登録店舗数を増やすなどの工夫が必要ではなかったか。

答弁 町長 同様の事業を何度か実施してきた流れの中でその域にとどまっていた。確かに少し踏み込んだ開拓もありえたと思う。

答弁 経済産業課長 現在登録いただいた店舗と使用できる店舗の中で漏れがないかも確認し、事務を進めていくべきだったと思う。



プレミアム付商品券

令和2年度施政方針について問う

質問 町はコミュニティソーシャルワーカー（※1）を中心とした総合相談窓口の充実を図るとともに、地域におけるアウトリーチ（※2）活動を行っていくとしている。具体的な取り組みは。

答弁 町長 3月1日より、役場健康福祉課にコミュニティソーシャルワーカーを配置しており、役場内や町内の福祉事業所間の連絡や連携、相談に關しての調整等を行う。また、令和2年度には、コミュニティソーシャルワーカーを中心に、福祉関係者が自宅を訪問するローラー作戦も実施予定である。

質問 これからの観光振興をどう展開していくのか。

答弁 町長 既にある素材の魅力の向上と新たな素材の掘り起こし、そしてその情報を効果的に発信していくことが重

要だと考える。地域おこし協力隊とさらなる連携を図り、新たな魅力を開拓していくことで特色ある事業推進につなげていきたい。

質問 花火大会は警備などの問題により継続実施は難しいと知っていた中で公約としたのはなぜか。

答弁 町長 公約の中で「見事に咲かせ続けます」というのは来年からという意味で、今年は前町長がやらないとある意味で決めてしまったのでそれを復活してやりましょうということではない。現状を見て休止の判断をした。

※1「コミュニティソーシャルワーカー」とは「相談支援包括化推進員とも呼ばれ、地域やコディネット等を行う。」

※2「アウトリーチ」とは「英語で、手を伸ばすことを意味する。福祉分野では、支援を必要とする方のもとに行き、行政等が向いて積極的に働きかける手法。」